

乙川小学校 校長だより

～思いやり つながり 感性の 輪を広げよう～

おもいやり
つな
な
か
い
か
わ
の
か
ん
せ
い
の
を
ひろ
げ
よ
う

令和 5年12月 18日
半田市立 乙川小学校
発行責任者 木下稔章

〈3年1組の児童と担任の先生が大放課に遊んでいる様子〉

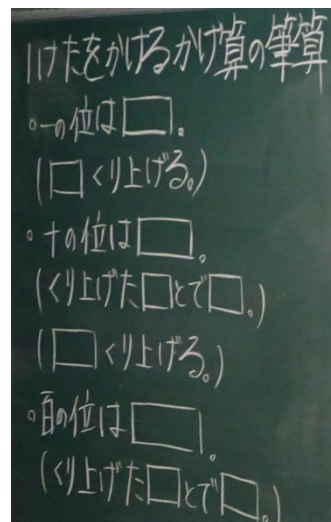
授業を見学し合って、よきよき授業について考えています。

本校では、代表の先生が行う授業を見学し合って、よきよき授業を行うための意見交換を行っています。11月、12月では、3年生と4年生のクラスで算数の授業が行われました。よきよき授業を行っていくためのポイントについて、意見交換の中で共通した意見がいくつか出されたのでご紹介します。これらの内容を受けて他の先生方もうまく自分の授業に取り入れてもらい、乙川小学校全体の授業がより充実したものになっていくことを期待しています。

〈ポイント① 学習に集中できる環境作り—話形の提示〉

3年生の算数で「1けたをかけるかけ算の筆算」の学習を行いました。計算の仕方をしっかり説明できるようになるために、今回は説明する文章が黒板に書いてあり、それをもとにして全員が同じ説明ができるように配慮した授業を行っていました。自分自身で言い方を考えさせる自主性を尊重する授業の方法もあるかと思いますが、今回の授業では、この説明の仕方が示されていることによって、どの児童も発表する際に自信をもって発表していたように感じました。

本校の児童は、自信がないと発言に消極的になる傾向があります。これは本校だけでなく、多くの小学生に当てはまることかもしれません。そんな中で、言い方を統一する配慮というのも一つの方法であると感じました。



〈ポイント② 学習に集中できる環境作り—机上の整頓〉

3年生の授業でも4年生の授業でも共通していたのは、授業の最初に机の上に余分な物を出さないで、すっきりさせて授業を始めていたことです。机の上にはいろいろな物があると、そちらに気が行ってしまふことがあります。机の上は記入するプリント以外の物がないことで、



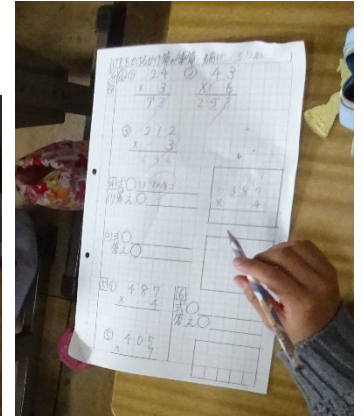
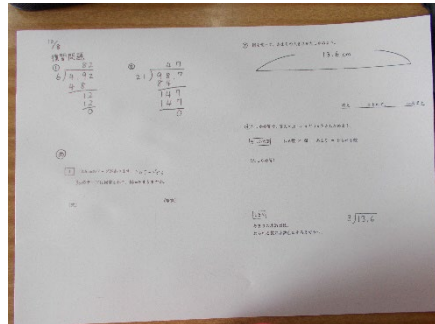


児童はプリントに書き込むことに集中して学習することができていたように思います。

机の上に必要な物として何を出させるかは、担任の先生ごとに少しずつ違いがありますが、他のことに気を取られないように配慮することは、児童の集中力を高める方法として大切な配慮であると思います。基本的なことですが、徹底できるよう全体で共有していきます。

〈ポイント③ 学習に集中できる環境作り—ワークシートの工夫〉

授業では、ノートを取ることが基本ですが、必要に応じて児童の理解を助けるワークシートを作成して使用することがあります。課題をスムーズに理解できるように、工夫したワークシートを心がけています。



〈ポイント④ 学習に集中できる環境作り—ペア活動の工夫〉

個人での学習活動—ペアでの学習活動—全体での発表や確認と、学習形態はいろいろありますが、その中の「ペアでの学習活動」について、3年生では、「筆算の仕方」や「ノートに正しく書けたか」など、意見交換をする以外に「できているかを確認」する方法としてペア活動を活用しています。お互いの考えが合っているかを確認し合うことで、児童は自信をもって挙手することにつながっています。



〈ポイント⑤ 個に応じた対応・支援—デジタルドリルの活用〉



個々の学習の理解度を測るために、授業の中で児童が解いた問題を教師が確認をすることがあります。教師の確認を待っている間や、問題が終わってしまった児童は、3年生では「e-ライブラリ」、4年生では「キュビナ」というデジタルドリルを活用するようにしています。デジタルドリルの利点は、解答がその場ですぐに採点され、たくさんの問題に取り組めることです。

タブレット端末を一人一台貸与している利点を生かして、教師が個別の指導を行っているときや課題の確認を行っているときなど、他の児童が待っている時間を無駄にしないように、デジタルドリルへの取組を上手に授業に取り入れて、子どもたちの学力の底上げにつなげていきたいと思っています。